

天津祝詞解題v0.85 20220410 Futatabino Michi

|         | 訓                              | 音  | 意味   | 解題(古事記による)   |
|---------|--------------------------------|--|--|--|
| 天地創造    | 高天原に 大天主太神 数多の天使を集へて 永遠に神話まります | タカアマハラニ モトツミオヤスメオホカミ アマタノカミガミヲツドヘテ トコトワニ カミツマリマス | 高天原において 天之御中主神(アメノミナカヌシノカミ)が 沢山の神様たちを集めて 永きにわたり 治めておられました  | 造化三神(高御巢産日神、神産巢日神)、神世七代  |
|         | 神むろ岐 神むろ美 の御言もちて               | カムロギ カムロミノ ミコトモチテ                                | 主神は、伊邪那岐尊伊邪那美尊に(国造りを)御命じになり、二神は国造りを成し遂げられました   | 神世の七代目である伊邪那岐伊邪那美の尊が(日本の)国造りを命じられた   |
| 天照大御神生成 | 神伊邪那岐尊 筑紫の日向の橘の小戸の阿波岐原に        | カムイザナギノミコト ツクシノヒムカノ ハチハナノオドノ アハギガハラニ             | 伊邪那岐尊が(伊邪那美尊を訪ねた黄泉の国から帰ってこられて地上に出られた場所が)九州の宮崎の橘の小戸の阿波岐原において  | 国造りをして伊邪那美尊が沢山の神様たちを産んだが、火の神を産んだ時にホトを焼かれて死んでしまった。伊邪那岐尊は愛しい妻を黄泉の国に訪ねたが、死後の醜い姿を見られた伊邪那美尊に、殺されそうになりほうほうの態で、地上に逃げ帰って来た。そこが「九州の宮崎の橘の小戸(小門)の阿波岐原」であり、このままの地名が宮崎市内に残っており、阿波岐原には           |
|         | 禊ぎ祓い給う時に 生ませる 祓戸の大神達           | ミノギハライタマフトキニ ナリマセル ハライドノオオカミタチ                   | 黄泉の国の穢れを、禊ぎと祓いをなされた時に お産まれになられた 祓戸の大神達(左目を拭われた時に「天照大御神」、右目を拭われた時に「月読命」、鼻を拭われた時に「須佐之男命」その他多くの神々)がお産まれになった。その神様たちよ | 「禊ぎ池」をご神体としてお祀りする江田神社がある。<br>天照大御神が須佐之男命と御誓約により結婚され五柱の男神をお産みになり、二人目の邇邇芸命が(宮崎県高千穂の峰に)降臨された天孫である。邇邇芸命が木花之佐久夜毘売と結婚して生まれた火遠理命の孫の神倭伊波礼毘古命が後に、宮崎県美々津の港から東征に出発され、大和を平定して初代天皇となられた神武天皇である。 |
| 祓い清め言上  | 諸々の曲事罪穢を 祓い給え 清め給え と申す事の由を     | モロモノマガゴトツミレガレヲ ハライタマヘ キヨメタマヘ トマラスコトノヨシヲ          | 全ての不正や罪や穢れを 祓ってください 清めてください と心を込めて お願い申し上げます   |  |
|         | 天津神 国津神 八百万の神たち共に              | アマツカミ クニツカミ ヤオヨロズノカミタチトモニ                        | 天界におられる神様 地上におられる神様 全てに立ち満ちておられる神様 達よ  |  |
|         | 天の斑駒の耳振り立てて 聞し召せと              | アメノフチコマノミミフリタテテ キコシメセト                           | 天翔ける斑模様の馬が耳を振り立てて、僅かな音も聞き取るように 私たちの願いを 聞き届けてください   |  |
|         | 恐み恐み 白す                        | カシコミカシコミ マホス                                     | 畏れながら 申し上げます   | 縄文時代 紀元前1万4千年～紀元前1千年頃  |
|         | 惟神靈幸倍ませ 惟神靈幸倍ませ                | カムナガラタマチハエマセ カムナガラタマチハエマセ                        | 何事も神様の思し召しのとおりに 有難うございます 有難うございます  | 弥生時代 ～紀元後350年頃<br>神武天皇即位 紀元前660年2月11日<br>仏教伝来 紀元後538年<br>聖徳太子十七条憲法 604年 遣隋使 607年<br>大化の改新 645年 平城京 710年<br>太安万侶古事記撰上 712年  |